

50歳から発症率が急増する「帯状疱疹」。今回から帯状疱疹に関するお話を書いていきます。

テレビやラジオの影響によって帯状疱疹という病気の名前を耳にしたことがある方も多いのではないか。

はこの病気は、水ぼうそうの原因となるウイルス(水痘・帯状疱疹ウイルス)が原因で引き起こされるもので、水ぼうそうにかかることがある人なら誰でも帯状疱疹を発症する可能性があり



いわて医療通信【50歳以上は気をつけよ】

1. 帯状疱疹とは

が発症します。子どもの頃に水ぼうそうになり、治つたとしてもウイルスは完全には消えることはなく、体の中の神経節(神経が集まる場所)に潜んでいます。その後に現れる痛みだけでは、発疹が現れず、筋肉痛や関節痛、肋間神経痛、さらには腹痛などと間違われることもあります。ウイルスが痛みを伝える細胞が集まる神経節を攻撃するため、強い痛みを伴い、皮膚の違和感やかゆみ、しびれとして感じる程度から、針で刺されたような「ピリピリ」「ズキズキ」「チ

ます。実際、日本では成人の90%以上がこのウイルスを体内に持っているといわれおり、再びウイルスが活性化すると帯状疱疹が引き起こされます。

また免疫や抵抗力の低下などできつかけとして再びウイルスが活性化し、帯状疱疹が引き起こされます。若い人でも発症することあります。帯状疱疹の症状は、腕や胸、背中など外見が半身にみられ、顔や首など外見が気になると、ここに現れることもあり、体の左右どちらか一方の神経に沿って帯状に現れる赤い発疹や水ぶくれが特徴です。発症初期には皮膚に神経痛のようない痛みだけで、発疹が現れることができます。また、糖尿病やがん、

にしたことがない、仕事に集中できない、仕事に集中できません。また免疫や抵抗力の低下などで免疫抑制剤の使用など、免

疫機能が低下する疾患を持つ人は、より発症しやすくなります。痛みにより、家事が活に支障をきたすことがあります。また免疫や抵抗力の低下などで免疫抑制剤の使用など、免

疫機能が低下する疾患を持つ人は、より発症しやすくなります。痛みにより、家事が活に支障をきたすことがあります。また免疫や抵抗力の低下などで免疫抑制剤の使用など、免

クチク」とした痛み、焼けるような痛みまでさまざまです。痛みにより、家事ができない、仕事に集中できません。また免疫や抵抗力の低下などで免疫抑制剤の使用など、免

疫機能が低下する疾患を持つ人は、より発症しやすくなります。痛みにより、家事が活に支障をきたすことがあります。また免疫や抵抗力の低下などで免疫抑制剤の使用など、免

内丸メディカルセンターは、紹介状の有無に関わらず受診が可能です。

岩手医科大学
皮膚科学講座

佐々木 夢希